



漢字とかな

かんじ

加藤 秀俊

がとう ひでとし

日本の新聞は1860年ころからはじまっていますが、そのころの新聞をみると、漢字がすくなく、かな文字でかかれていたことがわかります。その理由のひとつは、漢字の活字をつくるのがたいへんだったからですが、なによりも日本人のおおくがむずかしい漢字をよむことができなかつたからです。だから、そのころの新聞は、だれにでもわかりました。ところが、どういふわけか漢字をたくさんつかうのがえらいひとだ、というかんがえかたが政府の役人だの学者だののあいだにあったので、新聞もだんだん漢字をつかうようになってしまったのです。そういうふしぎな習慣がこれまでつづいて、いまの新聞はむかしにくらべると漢字だらけになりました。これら、たくさんの漢字を、はたしていまの日本人はぜんぶよむことができるのでしょうか？しらべてみると、そうではない、ということがわかっています。新聞をぜんぶただしくよむことのできるひとは10%にもならないでしょう。

よむことができないのだから、ましてや漢字をかくことなど、ふつうの日本人にはできません。このごろではワープロなどがありますから、漢字変換キーをおすだけで漢字はちゃんとでできます。しかし、「でてくる」ということは、「かける」ということではあり

ません。かくこともできない漢字をやたらにつかうのはおかしいとわたしはおもっています。

ただし漢字をかく、ということは英語やフランス語などローマ字をつかっていることばで、ただしスペリングでかく、ということとほぼおなじでしょう。ただしスペリングができないのではこまります。日本人はたくさんむずかしい漢字をつかっている、と聞いて感心するひとがいますが、ほんとうはじぶんたちのことばのただしスペリングがわかっていないのです。わたしも、漢字がなかなかわかりません。わからないから辞書でしらべます。複雑な漢字をかこうとするときには虫眼鏡でしらべます。なぜ、こんなむずかしい漢字をつかわなければならないのか？とふしぎにおもうこともよくあります。

いったい、どうしたらいいのでしょうか？わたしは、できるだけかなで文章をかき、漢字の数をできるだけへらしてゆくのがいい、とかがえています。むかしの日本人は、かな文字だけで「万葉集」だの「源氏物語」だの、すばらしい作品をのこしているではありませんか。いまの日本はむかしにくらべると社会も複雑になっていますから、すべてかな文字、というわけにはゆきませんが、漢字の問題で時間やエネルギーをあんまり無駄にしないほうがいいとおもいます。

(国際交流基金日本語国際センター所長)

こくさいにうりゅうききん にほんごこくさいしやちよう

表紙エッセイ
漢字とかな

加藤秀俊(国際交流基金日本語国際センター所長)

Essay
KANJI and KANA

Hidetoshi Kato (Director, the Japan Foundation Japanese Language Institute, Urawa)

読者から

From Our Readers

教育実践レポート⑫海外のノンネイティブ日本語教師のための訪日研修

日本語国際センター「海外日本語教師研修」について

久保田美子、築島史恵(日本語国際センター専任講師)

Japanese Language Teaching Around the World
⑫Training Programs for Non-native Teachers of the Japanese Language
Training Programs for Teachers of the Japanese Language in the Japan Foundation Japanese Language Institute, Urawa
Yoshiko Kubota, Fumie Yanashima
(Senior Lecturer, the Japan Foundation Japanese Language Institute, Urawa)

中・上級 新聞・雑誌から見る現代日本

Intermediate and advanced Aspect of Japan Today in the Newspaper and Magazine

第3回 携帯電話

本コーナーは著作権の関係でホームページへの掲載ができません。

Cellular Phone
(This article is prohibited to appear on the web sight by copyright holder.)

日本語を研究する

第11回 認知言語学からみた日本語教育

山梨正明(京都大学教授)

Research on the Japanese Language
Cognitive Linguistics and Japanese Language Education
Masaaki Yamanashi (Professor, Kyoto University)

初・中級 写真で見る日本人の生活

Beginning and intermediate Japanese Life As Seen in Photographs

日本人が住む家

Japanese Residence

初・中級 授業のヒント

Beginning and intermediate Ideas for Japanese-Language Classrooms

テープ教材の使い方(その1)

Way to Use Audio Tapes Part 1

本ばこ(新刊教材・図書紹介)

Book Shelf : Introduction of New Titles

国際交流基金開発教材

『写真パネルバンク』のユニークな使い方

コンテスト応募作品の紹介

Teaching Material Developed by the Japan Foundation
Photo Panel Bank
Contest results

海外日本語教育Q&A

Overseas Japanese-Language Education Q&A

ニュース・編集部から

Miscellaneous News・From the Editors

マークは、読者が教えている生徒のレベルを示します。

mark indicates the level of students whom readers are teaching

別冊 国際交流基金日本語国際センター設立10周年記念

An Extra Issue

The Japan Foundation Japanese Language Institute, Urawa

「日本語国際センター10年のあゆみ」

The 10th Anniversary

読者から

はじめまして。私はジョニー・ピンサルといいます。インドネシアの北スマトラ州メダン市にある高校で日本語を教えています。インドネシアでは日本語教育が盛んで、メダン市内だけでも日本語を教えている高校が14あります。このうち4つの高校は観光専門高校で、日本語ガイドやホテルの従業員になるための特別な日本語教育を行っています。

高校で教えている日本語教師は私を含めて全部で12人ですが、現在、山科先生という日本人の先生が国際交流基金から派遣されています。山科先生はメダン市内にある14の高校を順番に訪問しに来ます。その他にも私たちと一緒に勉強会を開いて日本語や日本語の教え方などを教えてください。私たちインドネシア人の日本語教師たちは、山科先生と一緒にみんなで勉強するのがとても役に立っています。私が1995年に浦和の日本語国際センターで研修を受けて

から、毎回「日本語教育通信」が送られてきます。私はそれをとても楽しみにしています。いつもどうもありがとうございます。

「日本語教育通信」は内容が豊富で、自分の日本語の勉強にも、また学生に日本語をおしえるときの参考資料としてもとても役に立っています。これからも「日本語教育通信」を活用していきたいと思しますので、どうぞよろしくお願いします。(インドネシア 北スマトラ州メダン市 ストモ第2高校 ジョニー・ピンサル)

●お手紙は編集部で要約・編集して掲載しました。

表紙エッセイプロフィール

加藤秀俊(かとう ひでとし)

社会学者。国内外多数の大学で教鞭をとり、現在は日本語国際センター所長、中部高等学術研究所所長、ユネスコ国内委員会副委員長。近著に「外国語になった日本語の事典(岩波書店)。

日本語国際センター 「海外日本語教師研修」について

日本 日本語国際センター専任講師
久保田美子・築島史恵

今回の「教育実践レポート」は、日本語国際センター開設10周年企画として、日本語国際センターの「海外日本語教師研修」について紹介します。



授業風景

1 はじめに

国際交流基金日本語国際センターでは、日本語を母語としない日本語教師を海外から招いて、一年に、7種類10研修を行っている。今回は、この中から「海外日本語教師長期研修（以下、長期研修）」と「海外日本語教師短期研修（以下、短期研修）」について紹介する。日本語国際センターが設立された平成元年度から10年度までに、長期研修には48ヶ国441人、短期研修には68ヶ国1,405人の研修生が参加した。研修の目的は、

- 1) 日本語運用力を向上させること
- 2) 教授法に関する基礎的な知識を身につけ、教授技術を向上させること
- 3) 現在の日本社会との接触を通して日本事情に関する全般的な知識を身につけること

の3点である。研修はすべて日本語だけで行われるので、参加者は全員、日本語能力試験3級以上の日本語運用力

が必要である。長期研修では、日本語教授経験5年未満、年齢35歳以下の若手教師を対象にしており、短期研修では、日本語教授経験2年以上、年齢55歳までの教師を対象にしている。

2 長期研修について

(1) 日本語の授業

まず、プレースメントテストで日本語運用力別にクラス分けを行う。初級後半から中級前半レベルは2クラスあり、四技能統合型の授業を行っている。また中上級レベルでは「読解文章表現」、「文法」、「聴解口頭表現」という授業科目がある。これらの科目は各々3つのレベルに分かれている。

長期研修の日本語授業で特徴的なことに、「自律学習」の時間と「課題研究」がある。「自律学習」では研修生が自分の目標と必要に合わせて自分で勉強することを方針としている。研修生のニーズが高い漢字、語彙、聴解

などは教材が用意されており、それらの教材に取り組んでもよいし、ほかの勉強をしてもかまわない。また「課題研究」では、研修生が自分でテーマを設定し、調べ、考え、レポートにまとめたり、教材にしたりする。講師は必要に応じて指導を行うが、「自律学習」も「課題研究」も研修生自身が自分で学習を計画、実行することが望まれている。

(2) 教授法の授業

教授法の授業では教授法に関する基本的な知識、技術、考え方を学び、模擬授業や教育実習などを通してそれを実際にためす。自分の授業をよく観察、内省し、他の研修生とも意見を交換する。その中で新しい考え方や方法などを学び、教師として成長することを目指している。



教育実習報告会

(3) 日本文化体験プログラム

授業のほかに、研修では研修生に日本を知ってもらうための様々なプログラムを用意してある。例えば、歌舞伎や大相撲を鑑賞したり茶道や生け花を実際に体験してみる。また、小学校を訪問したり、公民館の活動やホームステイに参加したりして、地域の人達とふれあう機会もある。そして桜の季節には、関西への研修旅行を行う。文化体験プログラムは研修生にとって、日本をより深く、広く理解するために欠かせないものとなっている。

(4) 長期研修の成果と今後の課題

長期間の日本滞在と研修によって、研修生は確実に日本語力を伸ばしている。特に日本人と接したり、様々な活動を経験したりして、日本の伝統文化だけでなく、現代の「ふつう」の日本人の生活や考え方をすることもできる。教授法については、新しい知識や技術に加えて、授業を評価する視点を持つようになる。これは帰国後も自己研修をしながら教師として成長し続けるために非常に



小学校訪問

に大切なことである。このように日本語、日本事情、教授法の三点について研修生が得たことは、教師としての大きな自信につながる。また、世界中の若手教師がこの浦和に集まり、9カ月もの間に生活し勉強する中で、研修生同士のすばらしい友情が生まれ、人間としての成長の場ともなっている。このこともまた、自国の学習者の教育へと反映されていくだろう。

今後は様々な国・地域への対応をさらに充実させていくことと、研修生の帰国後のネットワークづくりが課題として残っている。

3 短期研修について

(1) コースの概要

短期研修では、季節によって、研修生を次のように分けている。

1. 春（5月、6月）の研修：

中等教育機関や年少者のための学校の教師

2. 夏（7月、8月）の研修：すべての機関の教師

3. 冬（1月、2月）の研修：

高等教育機関や成人のための学校の教師

この3つの研修は、ほとんど同じカリキュラムで行われている。研修生は、来日してすぐプレースメントテスト（筆記試験と会話試験（OPI））を受け、その結果で2つのコースに分かれる。

Aコース：日本語能力試験3級程度の日本語力を持っていて、日常会話ができる研修生のコース。

日本語の授業が多い。

Bコース：日本語能力試験2級以上の日本語力を持っていて、日常会話だけでなく、複雑な説明や議論などができる研修生のコース。

教授法の授業が多い。

各コースの科目別時間数(週あたり)

	日本語 にほんご	日本語教授法 にほんごきょうじゆほう	日本事情 にほんじじょう
Aコース	16時間 じかん	3時間 じかん	2時間 じかん
Bコース	12時間 じかん	7時間 じかん	2時間 じかん

(2) 日本語と日本語教授法の授業

短期研修の日本語の授業には、「総合日本語」と「文法」がある。「総合日本語」は、短い研修期間でも、研修生が日本語の四技能を総合的に学んで達成感を感じることができるように、トピックシラバスを採用している。

このシラバスは、「食べ物」「学校・教育」「旅行・交通」など11のトピックで、それぞれ7つのレベルに分かれている。各クラスの授業は、プレースメントテストの結果を見て、このシラバスの中から決めている。できるだけ新鮮な話題や素材を教材にして、日本だからこその授業内容を心がけている。

「教授法」の授業は、教授対象者別のクラスで行っている。Aコースは時間が少ないので、講師の説明やデモンストレーション、研修生の簡単な活動紹介を行っている。Bコースでは、日本語力も高いので、いろいろな教室活動について話し合ったり、実際に講師やほかの研修生が模擬授業を行って、意見を交換したりしている。また、Bコースには、文字指導法、音声指導法などの講義の時間もある。今年度から、この短期研修のための教授法のシラバスを整理するプロジェクトが始まっている。

国や地域によって言語教育観や学習観にも大きな違いがあるので、これから調査研究を重ね、この多様性や非母語話者(non-native)教師の特質をシラバスに積極的に生かしていきたい。

(3) 日本事情の授業と日本文化体験プログラム

「日本事情」の授業は、「日本の地理」「日本の年中行事」



ビジターセッション

事」「歌舞伎」などのテーマがある。

また、長期研修と同じように、日本文化体験プログラムがある。短期研修では、このプログラムと「総合日本語」や「日本事情」の授業内容とをできるだけ関連づけるように工夫している。さらに、その中で、センター周辺に住んでいる日本人と交流する機会(ビジターセッション)も作っている。

こうして、短い期間ではあるが、日本という国を文化や言語、社会現象や背景にある考え方などいろいろな面から多角的に知ってもらいたいと考えている。

(4) 短期研修の課題

短期研修に参加する研修生の国籍は多様で、しかも年々、新しい国からの研修生が増えている。それぞれの国で行われている日本語教育の情報をなるべく早く正確につかんで、カリキュラムや授業内容に反映させていくことが、短期研修にとって一番大切なことであろう。また、この研修自体は短いので、各研修生が帰国後も自分で、いろいろな面で伸びていけるためのステップとなるような研修内容を、これからも工夫していきたいと考えている。

海外日本語教師研修に関するレポートや論文:

以下の資料のほか、日本語国際センターの紀要各号に、研修に関わる論文を掲載している。

(1) 特集「世界に向けての日本語教育支援」

『日本語学』(明治書院)1995.7

(2) 山田正春・嶋津拓「海外における日本語教育の

近年の動向と日本語国際センターの海外日本語教師研修」

『世界の日本語教育 日本語教育事情報告編 第2号』(国際交流基金日本語国際センター)1995.1

(3) 八田直美・築島史恵「非母語話者日本語教師の現状とその研修の課題」

『JALT日本語教育論集』(JALT日本語教育研究部会)1996.11

*「海外日本語教師研修」の申請に関する問い合わせは、日本語国際センター研修事業課までお願いします。

認知言語学からみた日本語教育

京都大学教授 山梨 正明

このコーナーでは、これから研究を目指す海外の日本語の先生方のために、日本語学・日本語教育の研究について情報をおとどけしています。今回のテーマは認知言語学です。

1. はじめに

これまでの言葉の研究、たとえば伝統的な規範文法、記述文法、構造言語学、生成文法などに代表される従来の分析では、主に文法的な知識の記述と一般化に力点が置かれ、その背後に存在する言語主体の認知能力や運用能力との関連で文法的な知識の本質を探究していくという視点が欠如している。現在、新しい言語研究の流れとして注目されている認知言語学の研究では、この後者の視点から言葉の本質を探究していくダイナミックなアプローチがとられている。

文法を中心とするこれまでの言語学の研究では、言語運用にかかわる要因や言語主体の認知能力にかかわる要因よりも、まず言葉の形式・構造にかかわる要因に目を向けていくというストラテジーがとられている。一般に、この種の分析では、まず言葉の形式的な側面、とくに音韻論から形態論・統語論に進み、その後、意味論、語用論の領域に入っていくというアプローチがとられる。

言語事象の複雑さを考えた場合、このような研究の進め方は理解できる。しかし、これは研究を進めていく上でのストラテジーとして考えなければならない。このように研究の対象領域の区分と分析のステップがある期間にわたって定着すると、実際の言語現象それ自体もモジュール的に区別され、それぞれの部門にかかわる現象が先験的に自律的な現象として存在するように誤解されることになる。しかし、実際の言語現象が、これらの部門によって区分される自律的な現象として捉えられる保証はない。また、言語現象の理解が、形式・構造の側面をみただけで、言語主体の認知能力や運用能力の側面をみていかなければそのメカニズムが適切に捉えられないという訳ではない。

2. 認知言語学のアプローチ

実際の言語研究を進めていく際にとるべき視点は逆であることが多い。言語現象を具体的にみていくと、言語主体の認知能力にかかわる要因や語用論的な要因を考慮しなければ説明できない現象が、音韻・形態レベル、統

語レベルから意味レベルにわたって存在する。日常言語には、むしろ認知的な視点から、この種の現象を見直していかなければ実質的な意味での説明が不可能な現象が広範に存在する。

認知言語学は、この問題を考慮した包括的なアプローチをとる。言葉は、主体が外部世界を認識し、この世界との相互作用による経験的な基盤を動機づけとして発展してきた記号系の一種である。言葉の背後には、言語主体の外部世界にたいする認識のモード、外部世界のカテゴリー化、概念化のプロセスが、何らかの形で反映されている。認知言語学は、このような人間の認知能力にかかわる要因を言語現象の記述、説明の基盤とするアプローチをとる。このアプローチをとるならば、言葉の背後に存在する言語主体の認知的な制約との関連で、言語現象を包括的に捉え直していく方向がみえてくる。このことは、決して言葉の形式・構造の側面を軽視することを意味するわけではない。むしろ、形式・構造にかかわる制約も、根源的に言語主体の認知能力や運用能力にかかわる制約によって動機づけられているという観点に立つことを意味する。

以上の点から明らかなように、認知言語学のアプローチの特徴は、外部世界を認識する主体の経験的な基盤、主体の認知能力との関連で言語現象をダイナミックに探究していく点にある。認知的アプローチという、「認知的」という用語を特別視して、言葉のメンタルな側面を強調する言語学のアプローチである、というように誤解されるかも知れない。また、外部世界を認識する主体の「経験的な基盤」を考慮したアプローチという、人間の生得的な能力の側面よりも経験的な側面を強調する言語学のアプローチであると理解されるかも知れない。生きた言葉は、その記号系を生みだし運用している言語主体を無視して考えることはできない。言葉の背後には、具体的な生活文脈のなかで生きている認知主体としての人間が存在する以上、言語世界にはメンタルな側面、経験的な側面のいずれも反映されている。また、人間の認知能力には、生得的な側面と経験的な側面の双方が反映されている。認知言語学のアプローチは、言語主体の先

行経験としての認知能力に注目すると同時に、外部世界を認識していく主体の経験的基盤に注目する。言語習得、言葉の歴史的な変化、言葉の創造的な拡張のプロセスをみていくなれば、言語現象の背後には、これらの側面が統合的に反映されていることが明らかになってくる。

これまでの言語学の研究をみた場合、言葉の形式・意味・運用に関する一般的で、包括的な記述・説明を可能とする言語学のアプローチが存在するとは言えない。また、そのような包括的なアプローチが安易に期待できるわけでもない。どのアプローチも、言葉の形式や意味のある側面の定式化を試みてきてはいるものの、事実の予測性、経験な事実の広がりに関する実質的な手ごたえは、その定式化が与える印象からはほど遠い状況にあるといえる。人間の認知能力と運用能力にかかわる要因を言語現象の記述、説明の基盤とする認知言語学のアプローチは、学際的な研究の場の広がりのなかで、これまでの言語学の分析のスコープを超える、より包括的で実質的な言語研究のパラダイムとして注目されている。

3. 認知言語学と日本語教育

認知言語学の研究は、学際的な進展と広がりをみせてきているが、認知言語学と言語教育との関連にかかわる研究は、実質的にはなされていない現状にある。しかし、認知言語学のパースペクティブからは、次のような研究の方向を日本語教育にたいして示唆することができる。まず、これまでの言語学は、(伝統的な国文法や生成文法にその典型がみられるように)言語能力を中心にした研究が主眼となっている。これにたいし、認知言語学は、言語能力の発現を可能とする一般的な認知能力と運用能力から言語能力を創発的に規定していく。この視点にたつならば、言葉の教育に際し、(母国語の話者であれ、外国語の話者であれ)言葉の背後の言語主体の認知のメカニズムと運用のメカニズムとの関連で、言葉の創発的な側面にかかわる知識を導入ながら、言葉の形式から意味、運用にかかわる知識を提示していくことが可能となる。(ここで問題とする言葉の創発的な側面にかかわる知識は、イメージ形成、視点の転換、意味・構文の比喩的拡張、メトニミー的拡張等を可能とする言語主体の創造的な知識を意味する。)

従来の言語学の研究では、分析の対象となるデータは、主に文字通りの意味ないしは字義通りの意味にかかわる言語事例に限定され、比喩的な表現やメトニミー的な表現、アナロジーがかかわる表現等の言語データは、特殊なデータとして、考察の対象からは除外される傾向にあった。しかし、このような分析対象の区分には、本質的な問題がある。一見したところ、文字通りの意味を内包し自律的に存在するようにみえる言語表現も、根源的には、言語主体の創造的な認知能力(とくに、比喩、メトニミー、アナロジーをはじめとする言語主体の創造的

な認知能力)を背景として発現してきた言語表現であり、この言葉の創造的な発現過程の文脈を無視して、文字通りの言語表現のデータを自律的に規定していくことは不可能である。(例えば、「机の足」、「胸がいたむ」、「不況が日本を襲う」などの語彙、慣用句、構文は一見したところ文字通りの表現にみえるが、根源的には比喩やアナロジーに基づいている。)この種の言葉の発現過程は、子供の言語習得、大人の言語表現の拡張的な生成、外国語話者の対象言語の創造的な理解と習得のプロセスに自然な形で反映されている。認知言語学の観点からみた場合、言語教育の現場においても、この言葉の創発的な視点を何らかの形で体系的に組み込んだ教材と指導法の開発を考えていく必要がある。

認知言語学で重視されるもう一つの重要な視点は、プロトタイプ理論に基づく言語現象へのアプローチにある。この理論に基づく認知言語学の研究では、日常言語の表現は、それぞれが同等の資格で分布するのではなく、典型的な事例から非典型的な事例へとグレイディエンスを成して段階的に分布することが明らかにされている。(例えば、この種のグレイディエンスは、「太郎が計算する」、「?」「コンピュータが計算する」、「*」「電卓が計算する」などの構文の相対的な判断に反映されている。)この種の分布関係は、語彙レベル、句レベル、文レベルのいずれの言語レベルにもみられる。この観点からみるならば、日常言語の言語事例は、プロトタイプとしての中心的な事例から、段階的なグレイディエンスを経て周辺の事例、非典型的な事例へと分布する動的ネットワークとして把握することが可能となる。この事実は、言語習得や外国語の習得の過程とも密接に関係している。一般に、プロトタイプとしての典型的な事例は(周辺の、非典型的な事例にくらべて)実際の伝達の場において使用頻度が高く、理解と記憶の観点からみて情報処理が容易であり、言語主体にとって比較的初期の段階から習得が可能な事例である。言語教育や言語習得の研究に、この典型-周辺のグレイディエンスからなる動的ネットワークを反映する学習システムを応用していくならば、これまでの言葉の学習システムにくらべ、言葉を学んでいく主体の直観を反映する、より自然で効果的な学習成果が期待される言語教育システムの開発が可能となる。

これまでの文法を中心とする言語研究は、(生成文法にその典型がみられるように)トップダウン的で抽象的な規則依存型のアプローチが中心になっている。(このトップダウンのアプローチは、抽象的な規則から事実の分布を一般的に予測していく情報处理的なアプローチに基づいている。このアプローチの文法判断は、規則か例外かの排他的で絶対的な二分法の判断に基づいている。)これにたいし、認知言語学のアプローチは、この種の規則依存型のアプローチの本質的な限界を指摘する。前者のアプローチの問題は、一見したところ標準的なデータ

とみられる言語事実の領域にたいして仮定される規則（あるいは、一見、コアとみなされる言語能力にたいして仮定される規則）の適用範囲が非常に狭く、多くの反例が存在するにもかかわらず、この一般規則から誤った予測（実際の言語使用の事実と反する過剰な予測）をしていく点にある。（例えば、このアプローチの受動規則、与格移動規則によって生成されるかなりの構文は、実際の日本語の構文としては容認されないという事態が生じる。）これにたいし、認知言語学のアプローチでは、言葉を閉じた規則の体系として規定していくのではなく、音韻、形態から構文にいたる言語単位をスキーマとして規定し、この種の言語単位の実際の言語使用の文脈における定着度、慣用化の視点から相対的に規定していく。（語彙の多義性、イディオム的な表現のグレイディエンス的分布、プロトタイプ的な表現と拡張表現の相対的な分布によって特徴づけられている多様な言語事実を考慮するならば、いわゆる「規則」は、この多様な事実のうち標準的に安定していると考えられる言語事実の一部を規定するための理論的な道具立て以上の意義は認められない。）

以上の考察から明らかなように、認知言語学のアプローチでは、トップダウン的に規則が存在し、この規則との関係で可能な事例を派生的に規定していくのではなく、むしろ認知主体の言語使用や言語習得の過程にかかわるボトム・アップ的アプローチを重視する。すなわち、このアプローチでは、言語現象の規定に際し、まず具体的な事例の定着度、慣用度との関連でスキーマを抽出していくプロセスに注目し、この抽出されたスキーマとの関連で他の具体事例の一般化を行い、このスキーマに適合しない事例が出現した場合には、このスキーマが動的な拡張のプロセスとの関連で新しい事例を規定していくという、言語使用を重視したアプローチをとる。

生成文法にみられるような従来の言語学のアプローチの問題は、言語教育の場にも無関係ではない。確かに、言語教育の実際の場においては、事例中心、用法中心の教授法が採用されているとしても、やはりその根底において、文法重視（言語能力重視）あるいは規則重視のアプローチを反映する教授法がとられてきた点是否定できない。この種のアプローチの限界は、記述・説明の対象としての言語能力（ないしは文法能力）を自律的な知識として、言語表現を柔軟に理解し表現していく運用能力や、言葉の創造的な拡張にかかわる認知能力から不当に切り離してきた点にある。認知言語学のアプローチにみられるように、言語主体のもつ認知能力と運用能力を直接的に反映する言語事例の定着度、慣用度との関連でスキーマを抽出し、この抽出されたスキーマとの関連で他の具体事例の相対的な一般化を図っていくアプローチが言語教育の場に採用されていくなれば、これまでの用例重視、規則重視の教授法を越える、より科学的で体系的

な言語教育のアプローチが可能となる。

4. 認知言語学の基本文献

認知言語学の基本的な考え方と研究動向を知るためには、とくに次の文献が参考になる。認知言語学の研究は、言語学プロパーの研究にとどまらず、人間の知のメカニズムの探究にかかわる心理学、文化人類学、生態学、計算機科学、脳科学をはじめとする関連分野にも、重要な知見を与えている。これらの隣接分野と認知言語学との関係に関しては、とくに文献 [5] [6] [8] [10] を参照されたい。

（認知言語学の入門的文献）

- [1] Dirven, René and Marjolijn Verspoor 1998. *Cognitive Exploration of Language and Linguistics*. Amsterdam : John Benjamins.
- [2] Taylor, John R. 1989. *Linguistic Categorization*. Oxford : Clarendon Press.
(辻 幸夫 (訳) 『認知言語学のための14章』 紀伊国屋書店、1996)
- [3] Ungerer, Friedrich and Hans-Jorg Schmid 1996. *An Introduction to Cognitive Linguistics*. London : Longman.
(池上嘉彦 他 (訳) 『認知言語学入門』大修館書店、1998)
- [4] 月刊『言語』(1998)「特集：入門 認知言語学」(11月号)
- [5] 山梨正明 1995 「認知文法論のパースペクティブ」、『日本語学』Vol. 14、No. 9、pp. 73 - 91
- [6] 山梨正明 1998 「認知言語学 新しい言語科学の展望」, 玉村文郎(編)『新しい日本語研究を学ぶ人のために』世界思想社、pp. 251 - 276

（認知言語学の専門的文献）

- [7] Lakoff, George 1987. *Women, Fire, and Dangerous Things*. Chicago : The University of Chicago Press.
(池上嘉彦 他 (訳) 『認知意味論』 紀伊国屋書店、1993)
- [8] Lakoff, George and Mark Johnson 1980. *Metaphors We Live By*. Chicago : The University of Chicago Press.
(渡辺昇一 他 (訳) 『レトリックと人生』 大修館書店、1986)
- [9] Langacker, Ronald W. 1987/1991. *Foundations of Cognitive Grammar*. Vols. I/2, Stanford : Stanford University Press.
- [10] Langacker, Ronald W. 1990. *Concept, Image, and Symbol*. Berlin/NewYork : Walter de Gruyter.
- [11] 山梨正明 1995 『認知文法論』 ひつじ書房



写真で見る 日本人の生活

「日本人が住む家」

に ほん じん す いえ

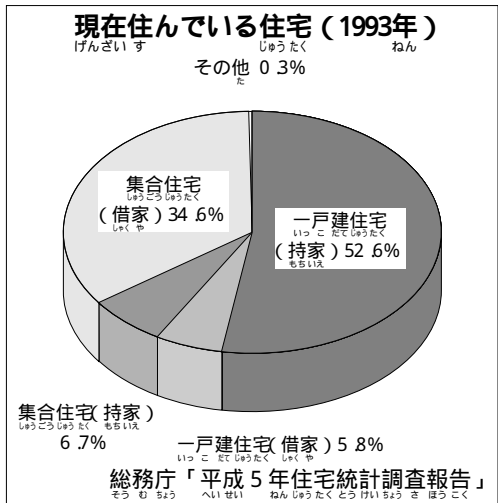
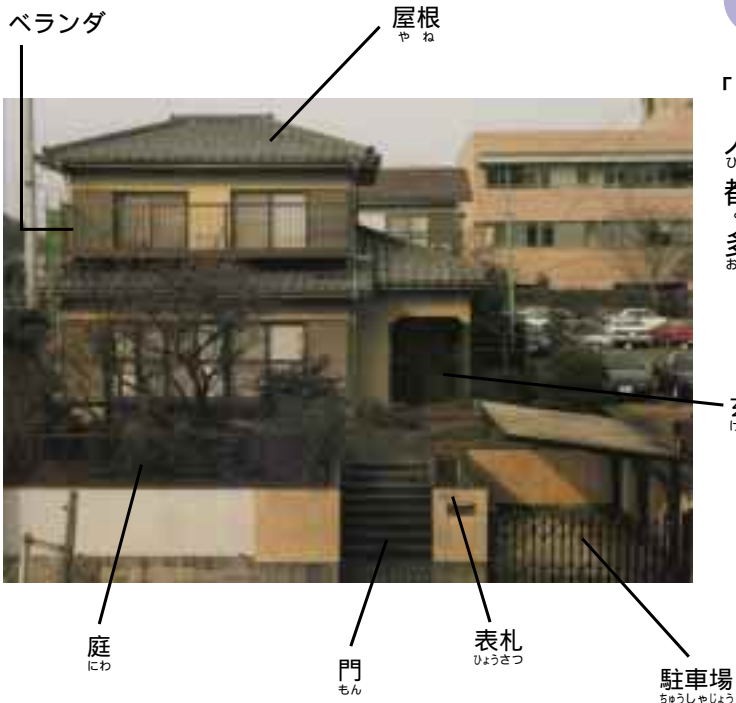
このコーナーでは、国際交流基金日本語国際センターが発行している、日本語教育用「写真パネルバンク」を使って、初中等教育機関で日本語を教える先生方が、どのように日本人の生活を紹介できるかを提案していきます。また、文型、単語、漢字は、初級の学習者でも読めるようにやさしいものを使っています。今回は「衣食住と道具シリーズ」を使って、日本人が住む家について取り上げます。

一戸建住宅

いっ こ だて じゅう たく

「庭つきの一戸建」を持つことは、都会に住む人にとって夢です。

都会では、アパートやマンションに住む人が多いのです。



玄関

げん かん

日本では、玄関でくつを脱いで、家に上がります。



げた箱 (くつが入っている)

くつ

げた



日本間(和室)

にほんまわしつ

昼間はたたみの上にざぶとんをして、その上に座ります。

寝る時は、机やざぶとんをかたづけて、ふとんをしきます。



押し入れ

おしい

ふとんは、昼間は押し入れにしまっておきます。

押し入れには、他にもざぶとんや服など、いろいろなものをしまえます。



LDK(リビング・ダイニング・キッチン)

新しい家やマンションは、居間(リビング・ルーム)と食堂(ダイニング・ルーム)と台所(キッチン)が一つになっていることが多いです。



3LDKのマンション広告

3LDKとは、LDKの他に部屋が3つ(この広告では洋室が2つと和室が1つ)あるということです。

授業のヒント

今回は、聞くことの練習方法を紹介します。
特に音声テープを使った活動について紹介し
ます。

テーマ テープ教材の使い方(その1)

目的・教えること
<ul style="list-style-type: none"> 聞く力を高める 意味や内容の聞き取り方
学習者のタイプ
初級から中級
クラスの人数
何人でも
準備するもの
音声テープの教材 テープレコーダー、タスクシート

ふつうだれか話を聞くときは、目的を持って聞いています。お店で品物の値段を聞くときには、値段を知ることが目的なので、値段に注意して聞くはず。また、ニュースを聞くときも自分の必要に合わせて「いつ」「どこで」「だれが」「どうした」などについて注意して聞きます。

具体的な教材としては『楽しく聞こう』『ニュースで学ぶ日本語』などがあります。

みなさんのクラスでは(1)、(2)のどのタイプのテープを使いますか。今回はとくに(2)の「内容を聞き取るためのテープ」の使い方について見てみましょう。

テープ教材の利用

海外では日本人が話すのを聞く機会も少なく、テレビやラジオなどでもなかなか生の日本語の音に触れる機会は少ないでしょう。日本人が周りにいなくても、また、発音に自信がなくても、テープ教材をじょうずに使って学習者の聞く力を高めることはできます。

今回は、テープ教材の特徴やその使い方を知って、効果的な授業をしてみましょう。

教材の種類

テープ教材にもいろいろな種類があります。そして、教材の種類によってその目的や使い方も違います。

(1) 音を聞き分けたり発音練習をするためのテープ

これらのテープは、日本語の学習を始めた初級段階の学習者のために音やアクセントなどを聞き分けたり、単語を聞き取ったり、テープの発音のまねをする練習用のテープです。練習のためによく似た音が比べられるようにペアに並べた(ミニマルペア)教材もあります。

具体的な教材としては『日本語発音』(国際交流基金日本語国際センター)などがあります。

(2) 内容を聞きとるためのテープ

これらのテープは会話やニュースなどを聞いてその内容を理解することを目的としています。

タスクについて

内容を聞き取るためのテープにはふつう、タスク(テープの内容に関する問題)がついています。聴解練習のタスクは、ふつうの生活の中で聞くときと同じように、学生に聞く目的を与えています。教師は、聞かせたい内容によって、タスクを変えることもできます。同じテープを使って、単純な情報を聞き取らせる簡単なタスクもできるし、複雑な内容を聞き取らせたり考えさせたりする難しいタスクもできます。教材にあるタスクだけでなく、みなさんが自分で考えたタスクをつけることもできます。

まず、初級の聴解タスクを考えてみましょう。次のような内容のテープだったら、どんな情報を聞きとらせたらいいでしょうか。質問を考えてみましょう。

A : いらっしゃいませ。
 B : ハンバーガーを一つと、フライドポテトを一つと、コーヒーを二つください。
 A : はい、ハンバーガーを一つと、フライドポテトを一つと、コーヒーを二つですね。
 B : はい。
 A : おまちください。ぜんぶで、610円です。
 B : はい。
 A : はい、ありがとうございます。

『教科書を作ろう れんじゅう編』
国際交流基金日本語国際センター
「3 - 4 ハンバーガーの店」



どんな質問ができますか。「話している人は何人ですか。」「どこで話していますか。」「だれとだれの会話ですか。」「何を注文しましたか。」「全部でいくらですか。」など、いろいろな情報を聞き取らせることができるでしょう。学生にちょっと考えさせる問題として、「このお客さんは、何人分注文しましたか。」などというタスクもいいかもしれません。

聞くという活動は一人一人がするものですから、学生が自分で答えを書けるようにタスクシート（タスクの答えを書く用紙）を作りましょう。

・タスクシートの例

ハンバーガーショップです。テープを聞いてください。

	なにを	いくつ
お客さんは何をいくつ注文しましたか。		
ぜんぶでいくらでしたか。		えん

この例はタスクを日本語で書きましたが、初級の学生は読むのがたいへんかもしれません。聞く力をのばすことが目的なので、タスクはみなさんの国のことばで書いてもいいでしょう。学習が進んで学生が日本語を読めるようになったら簡単な日本語で書いてください。

聴解の授業の進め方

聞く練習を効果的に進めるためには、ただテープを聞かせるのではなくて、聞かせる前や、聞かせた後の指導も大切です。

聞かせる前にすること

●場面の理解

これから聞く会話がどのような場面で話されているかを説明します。上の場面であれば、自分の国にあるハンバーガー屋のことを言わせたりして登場人物や会話の内容について推測させます。これは、自分の国のことばですればいいでしょう。



●ことばの確認

場面と関係のある日本語のことばを紹介します。例えば買い物の場合であれば、そこで必要な表現、ねだんの言い方など、これから聞く会話の理解に必要なことばを確認しておきます。

●タスクの理解

学生に聞く目的を与えるために、タスクを最初に示しておきます。タスクがよくわかったかどうか確認してからテープを聞かせましょう。

聞かせる

ここでは、必要な内容を聞きとることが目的です。タスクに答えられれば、テープで言っていることが全部わかるまで何度も聞かせる必要はありません。

聞かせたあとにすること

・タスクの答えを確認します。

・会話などの他の活動に発展させることもできます。上のテープの例なら、「注文のしかた」の練習や「～をください」などの文型練習につなげることができます。

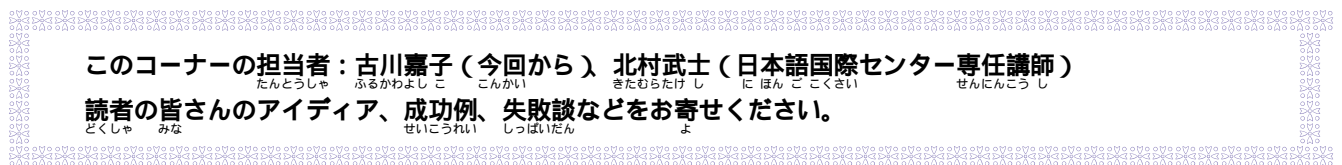
これは、会話のテープを聞かせるときの一つの例です。今回は「聞く」ことを取り入れたいろいろな練習を紹介します。

参考文献

- 文化外国語専門学校（1994）『楽しく聞こう1 2』凡人社
- コーベニ澤子・高屋敷真人・本間直子（1993）『モジュールで学ぶよくわかる日本語1 2』アルク

このコーナーの担当：古川嘉子（今回から）、北村武士（日本語国際センター専任講師）

読者の皆さんのアイデア、成功例、失敗談などをお寄せください。





「日本語の教材や図書に関する新しい情報がほしい」という海外の先生方の声をよく聞きます。このコーナーでは、最近出版された日本語教材や参考書を中心に紹介していきます。紙面の制約上、一回にごくの本を紹介できませんが、海外の先生にとって使いやすい教材「授業や研究の役に立つ本」、また、「知っているると便利な図書・資料」などを取り上げます。

データ凡例 1 著者 2 出版社 3 刊行年月 4 ISBN 5 判型・ページ数 6 定価 7 その他

初級からいろいろな作文とスピーチが練習できる副教材

『日本語 作文とスピーチのレッスン ~初級から中級へ~』



データ

1 鶴沢梢 2 アルク (〒168 8611 東京都杉並区永福2 54 12 / TEL .03 3327 1101 FAX .03 3323 1001) 3 1998年12月20日 4 4 87234 928 8 5 B 5 判・176ページ 6 1 890円 7 別売カセットテープ(60分 x 1巻) 2,100円 (4 87234 929 6)

クラスで発表するために書く

この教材は、初級・中級レベルの学習者の作文と口頭発表の力を伸ばすための副教材です。どの作文もクラスでの発表を目的にしている、その準備のために書くという点、今までの作文の教材と違って、学習者はクラスの人に理解してもらえるように書いたり話したりする練習をします。

構成は、3つのPartからなり、Part 1には外国語での作文とスピーチについての著者の考え方が書いてあります。初級の段階からまとまった内容を一人で話す練習をすることの大切さなどが述べられています。Part 2はこの教材の中心で、作文とスピーチのための教材が11種類あります。たとえば、料理の作り方を書いて、発表する/絵本の絵をもとにしてお話を書き、クラスの人に絵を見せながらそれを読む/簡単な会話文を書いて、人形劇にして発表するなど、内容も発表の形態もさまざまです。スピーチのモデル文を録音したカセットテープもあります。

Part 3には、一人でスピーチの練習をする場合の方法が書いてあります。

この教材の最大の特徴は、初級・中級の学習者が楽しみながらスピーチの練習ができるような話題やタスクが選ばれていることです。学習者は、この練習を通じて自分で考えたことを表現する楽しさを感じることができるでしょう。

学習者や教師のために

クラス状況によっては、スピーチの練習を初級から取り入れるのが難しいような場合もあるかもしれませんが、Part 2のモデル文を読み、必要な語彙や表現を学習し、教師のアドバイスを受けることができるなら、学習者はきっと自分にもスピーチができるという気持ちになるはず。それぞれの練習の「instructions」には、準備から発表までの手順が英語と日本語でくわしく書かれています。発表のときに視覚的な助けになる絵や品物の効果的な使い方などの説明もあります。この部分は学習者にも教師にも参考になります。さらに、「先生に」には著者の経験にもとづいた教師のための注意点がていねいに述べられています。このように本教材は、クラスでスピーチをするときに、学習者にも教師にも役に立つ情報がたくさんあります。



P 39



P 49

教室活動を楽しむための道具箱 『日本語の教え方スーパーキット』



データ

■水谷信子監修・執筆・制作協力：

柵橋明美、木山三佳、久保田美子、

松本隆、遠藤藍子■アルク（〒168

8611 東京都杉並区永福2 54 12 /

TEL .03 3327 1101 FAX .03 3323

1001 1999年3月10日 絵カード

(白黒)動詞122枚、形容詞35枚、名

詞29枚、フレーズ25枚、白紙5枚=計

216枚 索引8ページ付、シチュエー

ションかるた(絵札62枚・カラー、

読み札62枚・白黒) かなカード・

数字カード(白黒) 109枚 表面：ひ

らがな、カタカナ、裏面：数字、記

号(9種類) A4絵パネル23枚、書

き取り練習帳(A4版) 模型時計

(紙製) ペープサート7種類、地図、

五十音表等6枚 9,975円

効率的な授業準備のために

外国語を教える場合、言葉による説明よりも、絵や動作など、目に見えるものを使って説明した方がわかりやすいことがたくさんあります。このことは、特に入門期や初級の段階で当てはまることが多いようです。この教材は、初級のクラスでよく使われているさまざまな教材を一つにまとめたものです。これがあれば、授業準備のための手間が省け、その分、より多くの時間をいろいろな教室活動を考えるために使えるでしょう。

工夫しだいで広がる使い方

持ち運びに便利な取っ手がついた箱の中には、「かなカード・数字カード」「絵カード・絵シート」「ひらがな表・カタカナ表」「日本地図・世界地図」「時計板」「シチュエーションかるた」「ひらがな・カタカナ・漢字練習用シート」「カレン

ダー」「ペープサート(会話練習用スティック)」の全部で9種類の教材が入っています。

これらは用途によって、大きく四つに分けられます。一つ目は、教室に貼っておいたりする地図や表やカレンダーなど、二つ目は、文型や語彙・表現の練習などの教室活動でよく使うカードやシート、三つ目は、楽しみながら学ぶためのゲーム教材、そして四つ目は、書く練習のための教材です。

もちろん、それらの用途はきまったものではなく、それぞれ、工夫しだいでいろいろな使い方が可能です。例えば、世界地図は、国の名前を教える時に使うのはもちろんですが、いろいろな国の学習者がいる場合には、Q&Aを使った自己紹介に使ったり、「～と～はどちらが～ですか」の文型に使用します。また、この地図には、世界の主な都市の時刻が書いてありますから、時計板を使って時刻の表現を覚えたあとで、時間や時差をたずねる簡単な会話練習へと発展させることも可能です。

絵カードは、これまでもいくつか出ていますが、このキットのものはこれまでのものと比べて、ちょっと小さめになっています。見やすさの点では、大きいものに一歩ゆずりますが、扱いやすさでは上かもしれません。さらに、内容的にも、これまでのものを十分検討した跡がうかがえます。例えば、実際には日常よく使われるのに、これまでの絵カードでは採り上げられなかった形容詞の一つとして、「じみな」があります。これが絵カードに入ったのは今回が初めてでしょう。しかも、「はでな」と並んで一枚の絵の中で描かれているところにも、経験を踏まえた工夫を感じます。

初級文型のためのゲーム教材「シチュエーションかるた」は、普通のかると

ちがって、学習者が取るカードには絵が書いてありません。つまり、読むカードに書かれている日本語の意味が正確に聞き取れないと、学習者はカードが取れないようになっていきます。さらに、学習者にもカードを読む役ができるように、読むカードのうらには、アルファベットで文が書いてあります。

また、取るカードの裏にはひらがなが書いてあるので、文字の導入の後で、覚えたかどうかの確認のためにも使えます。

ていねいな解説書つき

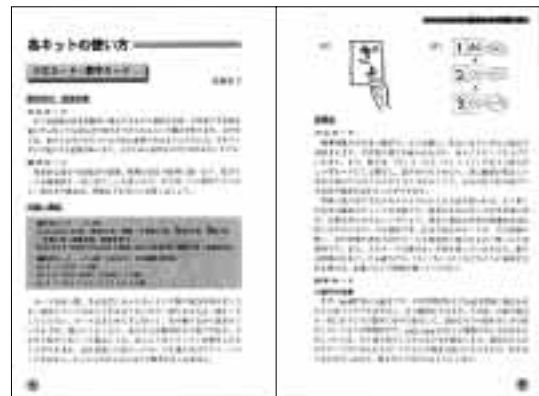
以上のように、この教材を十分生かすためには、教師一人一人の工夫やアイデアがぜひ必要なのですが、このキットには、その手助けとなる解説書がついています。この心のこもった解説書は、とりわけまだ経験の浅い教師にとって、この教材を使いこなす上で、何よりの強い味方となってくれるでしょう。これだけで、一冊の本に値する内容を含んでいます。



シチュエーションかるた



ペープサート



P.4 - 5

p.16～19は、以下の日本語国際センター専任講師が図書を選び、分担して紹介文を執筆しました。

木山登茂子、内藤満、高偉建、藤長かおる、磯村一弘、向井園子(執筆順)



教科書の日本語とは違う、新しい日本語についての解説

『日本語の現在 - 揺れる言葉の正体を探る』

データ

■陣内正敬 ■アルク (〒168 8611
 東京都杉並区永福2 54 12 / TEL 03
 3327 1101 FAX 03 3323 1001) ■
 1998年11月26日 ■4 87234 949 0 ■
 新書判・176ページ ■924円

「ピーマンが食べれますか」「それでは歌わせていただきます」などの文をみると、文法的にまちがった日本語だと思える人もいます。また、午後に「おはようございます」という挨拶を聞いたら、おかしいと思う人もいます。しかし、みなさんの中には、日本人が実際にこのような文を使うのを聞いたことがある人もいます。

逆に、教科書で勉強したおりに「あなたは～ですか」と言ったら「あなた」を使わないように注意されたり、ガ行の

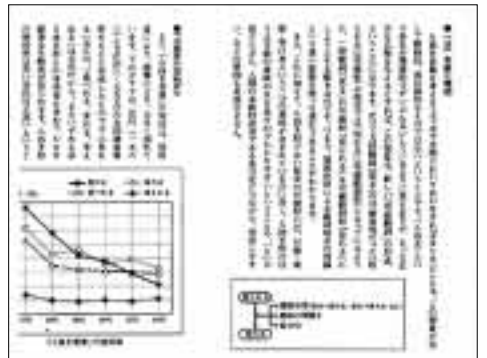
鼻濁音の発音をがんばって練習したのに日本人は鼻濁音をほとんど使っていなかった、という経験がある人もいます。しれません。

上にあげた例のように、日本語が変化していく中で、みなさんの使っている教科書にある日本語とは違う、新しい表現や使い方が生まれています。このような日本語の「揺れ」について解説した『月刊日本語』の連載記事「日本語の現在」が、今回まとめられて一冊の本になりました。

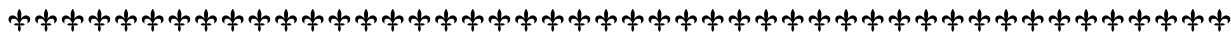
この本では他に、アクセントやイントネーション、外来語、敬語、文字など、いろいろなテーマについて、新旧の表現の「揺れ」を説明しています。ここでは新しく現れた表現を「日本語の乱れ=悪い日本語」と考えるのではなく、それは日本では実際にどんな人がどのぐらいの割合で使っているのか、その変化はなぜ

起きたのか、これからどうなっていくと考えられるか、ということ、グラフなどの資料を使ってできるだけ客観的に説明しています。

こうした新しい表現は、現在の日本語に触れていけば必ず聞くことができるでしょう。最新の生きた日本語の姿を知りたいと思う上級学習者や教師に適した本です。



P 22 - 23



初級、中級学習者向けの漢英辞典

『漢英学習辞典』

データ

■春遍雀來 (Jack Halpern) ■講談社
 インターナショナル (〒112 8652
 東京都文京区音羽1 17 14 / TEL 03
 3944 6493 FAX 03 3944 6394) ■
 1999年2月26日 ■4 7700 2335 9
 4 7700 2408 (アジア版) ■A 5 判
 ・1,112ページ・見出し字2,230字、
 31,000語に対する41,100字義を収録
 ■65,145円

本書は漢字を学ぶ人のための辞典です。同じ著者の「新漢英辞典」(研究社)を初級、中級学習者向けに編纂したもので、常用漢字を含む2,230の漢字と、約31,300の語や用例がコンパクトに収められています。漢字の意味や使い方が理解しやすい工夫され、次のような特色があります。

まず、漢字の基本的な意味が、簡潔なキーワードとして、一目でわかるように

赤い字で示されていることです。例えば、「生」という漢字の場合は、「LIFE」「BE BORN」「STUDENT」というキーワードが見出しの横に出ています。

次に、学習者に役立つ基本的で使用頻度の高い熟語が、最新のデータに基づいて選ばれています。そして、熟語は意味によって配列されています。例えば、先の「生」という字では、「LIFE, existence」という意味で「生命」「生死」などの語が、「LIFE, living things」で「生物」、「BE BORN」で「誕生する」、「STUDENT, pupil, scholar」で「生徒」「先生」などが並んでいます。ここでも、「LIFE」「STUDENT」などのキーワードが繰り返し赤い文字で示され、熟語を構成する漢字の意味や組み合わせが体系的に理解できるようになっています。

そのほか「新漢英辞典」と同様に、部首を知らなくても漢字が引ける、パターン認識に基づく「SKIP」と呼ばれる分

類法を使っていること、見出しの漢字が語頭以外の位置に来る熟語も含んでいること、同訓異義語(訓読みが同じで意味が違う語)の項目や、筆順を示す図があることなどが特色として挙げられます。

このように、本書は漢字を調べるための辞書としてだけでなく、漢字を学ぶための教材としても役立つでしょう。



家帯 setai household, home 世 yo world, society, public 世の中 yo no naka the world, society, life この世 kono yo this world, present life あの世 ano yo the other world, world of the dead HOMOPHONES yo 代 SUBSTITUTE =*0018 生 ▶ LIFE ▶ BE BORN ▶ STUDENT sei sū (sūnu) (kaku) (kuru) umarenu) umare) umare u(su) (o)u) h(aru) h(ayasu) ki nama nama- u' 因 iku ubu o i bu ei mi ki ■ 4-5-2 生 30yo-1 55-5-0 K3224 100 A034 Q3497 U7517 生 生 生 COMPOUNDS (act of being alive) LIFE, existence 2179	殺生 sesshō destruction of life; cruelty 畜生 chūshū beast; Damn it! 写生 shōsei sketch [draw] from nature; portraiture ●●● livelihood, living ●●● life, welfare ●●● 生計 seikei livelihood, living ●●● 生活 seikatsu life, existence; livelihood ●●● 生協 seikō cooperative association [society] ●●● 生業 seigyō occupation, calling ●●● 衛生 eisei hygiene, sanitation, preservation of health ●●● 厚生 kōsei public welfare, health promotion ●●● 生存 sūgen to exist ●●● 生存する sūgen suru exist, live, survive ●●● 生別 seibetsu separation, parting ●●● 寄生 kisei parasitism ●●● 蘇生 sōsei revival, resuscitation ●●● 野生 yasei no wild, feral ●●● AS BORN ●●● 生家 seika house where one was born ●●● 生年月日 seinigappi date of birth ●●● 誕生 tansū be born, come into the world ●●● 更生 kōsei be born again, start one's life all over; recycle ●●● 再生 saisei reclamation; regeneration 838
--	--

P 838

『写真パネルバンク』のユニークな使い方

～ コンテスト応募作品の紹介 ～

本紙32号で募集した『写真パネルバンク』のユニークな使い方コンテストへの応募作品を紹介します。

小学生向けのものから成人向けの活動まで、楽しいアイデアをありがとうございました。

*『写真パネルバンク』についての詳しい説明は本紙32号をご覧ください。

日本語国際センター制作事業課

写真を見て推測する

1. 日本の年中行事

韓国 権善和 [文一女子高等学校]

●目的 日本の年中行事を通して日本の伝統文化を理解する。

●使用パネル 「Ⅳ. 行事シリーズ」年中行事

●対象 高校生

●使い方 日本の年中行事の写真を見て、それに合った説明文を探す。

●手順

- 写真パネルを分類例(図1)のように、3枚ずつ7種類に分け、それぞれの写真について、行事名(表)と行事の説明(裏)を書いた「情報カード」(図2)を作っておく。
- 黒板に写真パネルをすべて貼る。
- クラスを7つのグループに分け、各グループに1種類の情報カード(3枚)とワークシート(図3)を配る。
- 生徒は、「情報カード」を読んでその内容をワークシートにまとめ、どの写真についての説明がグループで話し合う。
- グループの代表が黒板の写真パネルに「情報カード」(表)をはり、ワークシートに書いた内容を発表する。

季節別		
1. 春(ひな祭)	入学式	子供の日
2. 夏(七夕)	夏祭	お盆
3. 秋(お月見)	七五三	秋祭り
4. 冬(大みそか)	成人の日	節分
主題別		
5. お盆(盆踊り)	大文字	墓まいり
6. 年末(大掃除)	年越しそば	除夜の鐘
7. 正月(初詣)	お節料理	しめ飾り

図1. 写真パネルの分類例

- ⑥「情報カード」と写真パネルが合っているかどうかをクラス全員で確認し、グループごとに、当てた写真パネルの数を数えて順位を決める。



ひな祭(「Ⅳ. 行事シリーズ」年中行事(25))



「写真パネル」を見ながら説明する生徒

行事名	季節(日付)	行事の内容説明

図3. ワークシート

表	裏
<p>まつ ひな祭り</p>	<p>3月3日は「ひな祭」の日です。 女の子のいる家ではひな人形を飾って、ごちそうを食べたり甘酒を飲んだりして楽しめます。</p>

図2. 「情報カード」の例 表/裏

知っている言葉を探す
し ことば さが

2. カタカナことばはどれ？

ロシア アンナ・ボラシェンコバ (Anna Bolachenkova)

[サンクト・ペテルブルグ第631学校]



ハンバーガーを食べる (「V. 日常生活シリーズ」
食事 (13))

●目的 カタカナ表記
の言葉を覚える。

●使用パネル 「V.
日常生活シリーズ」

例)「テレビゲーム
をする」「ハンバー
ガーを食べる」など

●対象 小・中学生

●使い方 写真パネル

を見ながら、カタカナ言葉を探したり、写真のカタ
カナをいっしょに読んだりする。



先生から
せんせい

子供たちはファースト・フードが大好きですか
ら「ハンバーガーを食べる」という写真でハン
バーガー、ジュース、コーラ、コーヒーなどの
ことばがよくわかります。生徒たちは、「ああ、
何もならないで、単語をたくさん覚えまして。
簡単ですよ。」とうれしく思います。



写真パネルを見ながらカタカナことばを勉強する

楽しい文型練習のゲーム

3. 蜘蛛はイスの下にいますか？

くも した

英国 リディア・モーリ (Lydia Morey)

●目的 「～の上/下に あります/います」の練習。

●使用パネル 「I. 衣食住と道具シリーズ」住居

例)「LDK」「居間(茶の間)」「玄関」など

●対象 中・高校生

●使い方 写真パネルを利用して文型練習のゲームをする。

●手順

①部屋の写真の上に Blu Tac や Post it notes(貼ったりは
がしたりできる紙)を貼って、部屋の中のもの(椅子、机、
ベッド、本棚など)の写真を隠す。学生には見えないよう



子ども部屋 (「I. 衣食住と道具シリーズ」住居 (10))

に、小さい蜘蛛、蛙、蛇の絵を写真と貼った紙の間に入れる。

②学生は、蜘蛛や蛙がどこにいるかを当てるために「蜘蛛は椅
子の下にいますか。」のように質問して、紙をはがす。

③当たったら(蜘蛛がそこにいたら)その学生の勝ちで、その学
生が次に蜘蛛を隠す。当たらない時は、次の学生の番となる。

フランスと文化を比べる

4. 日本について知る

に ほん し

フランス 大島弘子 [オルレアン大学]

おおしまひろこ だいがく



花2 桜 (「III. 自然と余暇シリーズ」動植物 (12))

●目的 日本について理解を深める。

●使用パネル 「I. 衣食住・道具シリーズ」の
「こたつ」「寝具」「日本間(和室)」など

「III. 自然と余暇シリーズ」の「花2 桜」「日本」など

●対象 大学生

●使い方 「日本現代事情」の授業で、写真パネルを見
せながら、地理と気候、宗教、学校教育、外来語など
について説明する。その際、フランスと日本の文化の
違いに注意を向けさせる。



先生から
せんせい

学校教育について：日本の学期は四月か
ら始まり桜の季節に行われる式のイメージ
が強いので、「自然と余暇シリーズ」の「桜」
の写真を見せ、花見のことや日本人の抱く
桜のイメージについても触れる。フランス
にも桜はあるが、もっとピンクがきつく重
そうな花でポタツと落ちるので全然違う。

海外日本語教育

かい がい に ほん ご きょう いく

Q & A

このコーナーでは、海外で日本語を教えるときに、教師が直面すると思われる問題をとりあげ、質問に答える形で、読者のみなさんの参考になる情報を提供していきます。

Q

初級段階から楽しく効果的に読解の授業を進めるにはどうすればよいですか？

A

学習者が日常生活で「読む」ことが必要となる場面と関係づけて授業を計画しましょう。そのために、①読解素材の選び方、②読む前の準備と動機づけ、③読ませ方、④他の技能(話す、聞く、書く)への発展、の4点に考慮するとよいと思います。

日常生活との関係づけとは？

にちじょうせいかつ かんけい

実生活での「読み」は、「メニューを読んで注文する」「本を調べてレポートを書く」などのように、目的のあるコミュニケーション活動です。しかしながら、教室での「読み」は、語彙も文型も限られている初級の場合、文法や表現を「文字で確認する」ことに傾きがちです。このような「読み」も学習活動としては必要ですが、こればかりでは、実際のコミュニケーションに必要な読解力はつきません。初級でも、実際の「読み」の活動を意識・体験させるようにすることが大切です。これは学習者に満足感を与え、学習意欲を高めることにもなります。

読解の素材：どんなものを読ませるか？

どっかい そざい

初級段階からでも使えるものとして、レストランのメニュー、広告(例1)や簡単なパンフレット類などがあります。本物に似せて教師が作ってもよいです。このようなものから、情報をとらせるようにしましょう。

短い文章が読めるようになれば、日記文や手紙文(例2)、簡単な説明文などもよいです。

次のような市販教材も利用できます。

文化外国語専門学校編(1996)『楽しく読もう』1、2
文化外国語専門学校
山田あき子編(1990)『タスクによる楽しい日本語の読み』専門教育出版

動機づけ：読む前に何をさせるか？

どうき よ まえ なに

下の図は、読解の授業の流れを示しています。

読む前(準備活動)

- ・読む内容について興味を持たせる
- ・読むために必要な知識を確認する

読む

- ・目的をもって読む：スキミングやスキニング

読んだあと(発展的活動)

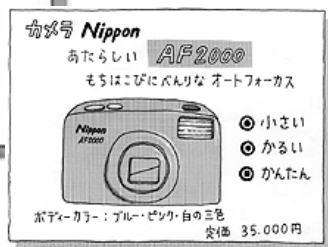
- ・話す、書く、調べるなど

読み始める前に、学習者を積極的に読みたいという気持ちにさせることが必要です。そのためには、学習者にも読む内容についてイメージを持たせたり、必要な語彙を確認したりします。この時、なるべく学習者が持っている知識を活性化させ引き出してやるようにします。次のような方法があります。

(1) 読解のテーマに関して学習者の経験や考えをきく。

「手紙」(例2)の場合なら、「夏休みにどんなことをするか」「どんなアルバイトをしたことがあるか」など、自分の場合について考えさせます。学生に母語を使わせてもかまいません。そのあとで、自分の経験や考えと対比しながらアルバイトの話を読ませれば、内容が理解しやすくなります。

(2) 内容に関係のある写真や図表などを見せて、わかることを話し合わせる。



例2. 「手紙」(国際交流基金『教科書を作るう』れんしゅう編149頁)

例1. カメラの「広告」(教師作例)

例

質問 1. この人はある有名な日本人です。絵を見てどんなことがわかりますか。

「田村亮子さん、柔道の選手、強いです」などがわかるでしょう。学習者が日本語で言えない時は、母語で言わせて教師が日本語で言いかえてもいいです。



質問 2. この人にどんなことを聞いてみたいですか。

「いつ柔道をはじめましたか。どうして柔道の選手になりましたか。どのくらい強いですか。」のような質問が考えられるでしょう。このような疑問を持つことによって学習者は、内容に関心をもち、読む準備を整えるのです。

(3) 題名や文章の一部から内容を予測させる。

題名のある文章ならその題名から内容を予測させることができます。物語のようなストーリーのある文章であれば、登場人物やストーリーの一部から物語全体を想像させるのもおもしろい方法です。

例

質問 次の4つの文は、ある物語の中からとったものです。どんな順番に並べたらいいでしょう。

- ・むこうのほうに、六人のかさをかぶった人が見えました。
- ・おじいさんは、さいごのおじょうさんに じぶんのかさをあげて、うちへかえりました。
- ・おじいさんとおばあさんは、にもつをあげました。
- ・ある年のおおみそかに、おじいさんは かさ五つまちへうりに行きました。

例4. 「かさじぞう」(国際交流基金『教科書を作ろう』れんしゅう編253 - 254頁から抜粋)

みなさんは、どんな順番に並べますか。「おじいさんはだれにかさを売ったか、にもつのなかみ」について知りたいと思ったかもしれませんね。この興味がこの物語(読解文)を読みたいという気持ちにつながるのです。

(4) 内容理解に必要な情報(文化的背景など)を説明する。

高校生がアルバイトをしない国では「手紙」(例2)のアルバイトについて理解するのは難しいかもしれません。また、「手紙」の中の季節のあいさつや、「かさじぞう」(例4)にでてくる「おじょうさん、かさ(雨の時にさす傘とはちがう)」のような日本的なものには注意が必要です。このような場合は、それについて教師が説明

しておく必要があります。

どのように読ませるか?

* 読解のタスク

読む準備ができた学習者は、読みたくてうずうずしているはずですが、教師は、何を読みとるかという課題(タスク)をもう一度確認します。

次は、「手紙」(例2)の場合です。

問題1. ①だれからだれへの手紙ですか。

②何について書いてありますか。

③いつ書きましたか。季節はなんですか。

④手紙を書いた人の質問は何ですか。

問題2. アルバイトについて下の表に書いてください。

仕事	いつ	時間	お金の使い方
しごと		じかん	かね つか かた

まず全体を把握させ(問題1) 次に細かい内容(問題2)に注意させます。これは、文章の初めから順番に逐語読みすることを避け、大意把握(スキミング) 必
要な情報の探し読み(スキニング)といった読解の技能(スキル)を養うためです。

* 学習者同士の協力

「読み」は一般に自分のペースで行う個人作業ですが、準備活動や読んだあとの答えの確認は学習者同士で行わせるとよいです。他の人が「どう読み、どう考えたか」を知ることは、読解力を養うのに役に立つからです。

また、文章全体をいくつかに分けて分担して読ませた後、わかったことをお互いに報告させるのも、クラス活動を活発にするひとつのアイデアです。

他の技能への発展: 読んだ後で何をするか?

ほか ぎのう はつてん よ あと なに

「読み」を他の技能を使った活動へ発展させることは、実際のコミュニケーションでの「読み」の役割を認識させることにもなります。読解の素材や読む目的にもよりますが、たとえば、次のようなことができます。

(1) 読む 話す

- ・「広告」(例1): カメラを売る人とお客さんにわかれてロールプレイをします。
- ・「有名人」(例3): だれかが「田村亮子さん」になって、他の学習者がインタビューをします。
- ・かさじぞう(例4): 物語文を使って劇をします。

(2) 読む 書く

- ・「手紙」(例2): 返事の手紙を書きます。

このコーナーの担当: 藤長かおる (日本語国際センター専任講師)
このコーナーでとりあげてほしいことを教えてください

NEWS NEWS NEWS ニュース

『1998年海外日本語教育機関調査』 仮集計結果について

国際交流基金が、外務省在外公館などの協力を得て実施した『1998年海外日本語教育機関調査』の仮集計結果がまとまりました。

表A

	98年調査	93年調査	増減率
国・地域数	114カ国	99カ国	15.2%
学習者数	2,091,759人	1,623,455人	28.8%
教育機関数	9,839機関	6,800機関	44.7%
教師数	27,428人	21,034人	30.4%

仮集計結果によると、世界の114カ国・地域の教育機関において日本語教育が行われ、その学習者数は約209万人になっており、前回'93年調査の99カ国・地域、約162万人に比べ、学習者数で約30%の増加となりました。(表A)

表B

	98年調査	93年調査	増減率
初中等教育	1,388,816人 (66.4%)	1,092,617人 (67.3%)	27.1%
高等教育	422,325人 (20.2%)	329,090人 (20.3%)	28.3%
学校教育以外*	280,618人 (13.4%)	201,748人 (12.4%)	39.1%
計	2,091,759人 (100%)	1,623,455人 (100%)	28.9%

*「学校教育以外」は民間語学校、組織内教育等。

学習者数の教育段階・分野別内訳は、

○ 編集部から ○

今回は「日本語国際センター設立10周年記念号」として、日本語国際センター関連の記事をたくさん掲載しました。センターで研修を受けた先生方は、浦和での研修を懐かしく思い出されたかもしれませんし、『通信』を送りつけてくる(?)「日本語国際センター」のことをよく知らなかった方は、今回の特集でセンターのことを少しでもご理解いただけたら幸いです。

尚、海外の日本語教育機関向けのメーリングリストを、今回から新しいものに変更しました。万が一住所などに間

*この欄にふさわしい情報やニュースがありましたら、下記までお寄せください。

国際交流基金日本語国際センター情報交流課
〒336 0002 埼玉県浦和市北浦和5 6 36

Research and Information Division, The Japan Foundation Japanese-Language Institute, Urawa, 6-36 Kita-Urawa 5-chome, Urawa-shi, Saitama 336-0002, Japan

初中等教育が全体の約66%、高等教育が約20%、「学校教育以外」が約14%となっており、この比率は前回調査とほぼ変わっていません。(表B)

表C

	98年調査	93年調査	増減率
アジア	1,507,863人 (72.1%)	1,272,786人 (78.4%)	18.5%
大洋州	349,396人 (16.7%)	207,644人 (12.8%)	68.3%
北米	138,597人 (6.6%)	67,014人 (4.1%)	106.8%
中南米	30,990人 (1.5%)	31,230人 (1.9%)	0.8%
欧州	61,322人 (2.9%)	42,795人 (2.7%)	43.3%
中近東・アフリカ	3,591人 (0.2%)	1,986人 (0.1%)	80.8%
計	2,091,759人 (100%)	1,623,455人 (100%)	28.9%

地域別の学習者数では、アジアが全体の72%、大洋州が17%と、この2地域で全体の90%近くを占めています。(表C)

表D

	学習者数	機関数	教師数
1位	韓国 946,857人	オーストラリア 1,729機関	中国 5,343人
2位	オーストラリア 305,518人	韓国 1,584機関	韓国 4,795人
3位	中国 238,627人	米国 1,530機関	オーストラリア 3,387人
4位	台湾 161,872人	中国 1,100機関	米国 3,016人
5位	米国 116,861人	ニュージーランド 432機関	台湾 1,198人

また、海外の日本語学習者数・機関数・教師数の上位5カ国・地域は左記のとおりとなっています。(表D)

なお、今回の報告はあくまでも仮集計ですので、最終的な集計結果は変動する可能性があります。

詳細な調査結果と分析は2000年3月までに報告書として刊行の予定です。

その際には『日本語教育通信』紙上でも詳しくお知らせします。

日本語教育論集 「世界の日本語教育」第9号発行

日本語国際センターが編集・発行している日本語教育論集「世界の日本語教育」の第9号が発刊されました。この論集は、世界各国で行われている日本語教育や日本語研究分野の研究を紹介するために毎年発行しているものです。第9号では、各国から投稿された論64編の中から選ばれた14編が掲載されています。

なお、本論集は国内外の主要な日本語教育機関に寄贈されるほか、市販もされておりますのでどうぞ御利用ください。

(定価2,200円)

市販についての問い合わせ先:

(株)凡人社

〒102 0093 東京都千代田区平河町 1
3 13 菱進平河町ビル8階
TEL: +81 3 3263 3959
FAX: +81 3 3263 3116

「写真パネルCD Rom版」 2000年3月発売予定

「写真パネル」全シリーズ(I~V)が1枚のCD Romになります。検索機能、音声、英語訳を新たに加え、幅広い利用を可能にします。

詳しくは、<http://www.jpff.go.jp/j/urawa>で。

『日本語教育通信』第35号

1999年9月発行

発行・編集 国際交流基金
日本語国際センター 情報交流課
〒336 0002 埼玉県浦和市北浦和5 6 36
The Japan Foundation
Japanese-Language Institute, Urawa
(6-36 Kita-Urawa 5 chome, Urawa-shi,
Saitama 336-0002, Japan)
TEL 048 834 1184 FAX 048 830 1588
E-Mail jfnckt@jpf.go.jp
編集協力
財団法人 国際文化交流推進協会
Assoc. ACE Japan (Japan Association for
Cultural Exchange)
© 1999 by The Japan Foundation

(表紙イラスト: 村井宗二)

違いがありましたら、お手数ですが編集部までお知らせくださるようお願いいたします。

(情報交流課 田中 伸一)

訃報

学習院大学教授 徳川宗賢先生が、99年6月6日にご逝去されました(享年68歳)。

徳川先生には、日本語国際センター開設時の情報交流委員長をお務めいただいた他、海外への日本語教育巡回指導など、国際交流基金の日本語教育事業に多大のご尽力をいただきました。慎んでご冥福をお祈り申し上げます。

国際交流基金日本語国際センター 設立10周年記念特集

「日本語国際センター10年のあゆみ」

国際交流基金日本語国際センターは、1989年7月1日に、国際交流基金の附属施設として埼玉県浦和市に開設され、今年で10周年を迎えました。

今回は、設立10周年を記念して、日本語国際センターのこれまでの事業の実績を紹介します。また、過去の研修生から、センターでの研修の思い出などもお送りいただきました。



国際交流基金日本語国際センター

国際交流基金日本語国際センターについて

海外における日本語学習者の大幅な増加に伴い、日本語教育に関する海外からの様々な要請も増加しています。

そのような中、海外における日本語教師・日本語教材の不足に対応するとともに、日本語教育に関する情報交流を推進するために、1989年7月、国際交流基金の附属機関として日本語国際センターが設立されました。

日本語国際センターでは、下記の3つの事業を中心に、海外での日本語教育に対する支援・協力を行っています。

1 研修事業

世界各国の日本語教師を日本に招へいし、日本語・日本語教授法などの授業や、日本の生活・文化を体験するための様々なプログラムを実施して、海外の日本語教師の養成を図ります。

2 教材制作事業

海外での日本語教材の需要に応えるため、教材の自主制作、海外での教材制作支援、海外の機関への教材寄贈などを行っています。

3 情報交流事業

海外での日本語教育に関連する情報の収集・整理・提供を行うとともに、日本語教育活動が円滑に、そして効果的に行われるようなネットワークづくりを目指します。

次ページ以降で、各事業の10年間の主な実績を紹介します。

感謝の集い

今年の7月1日、日本語国際センター設立10周年の節目を記念して、「国際交流基金日本語国際センター設立10周年 感謝の集い」が開催され、日本語教育関係者な

ど約200人が日本語国際センターに集まりました。

当日は日本とタイを衛星通信で結び、日本語国際センターの専任講師とタイの元研修生との会談なども行われました。



挨拶を行う
藤井国際交流基金理事長



記念式典出席者



衛星通信によるタイとの会談

1 研修事業

世界各国の日本語教師を中心に、10年間で108か国・地域、5,374名の研修生を招へいし、研修を行いました。

主な研修ごとの実績は以下のとおりです。

(1) 海外日本語教師長期研修（9か月）

48か国・441名（89年度より実施）

海外の中・高等教育機関等の日本語教師養成を図るため、主に若手の日本語教師を招へいして、日本語運用力の向上と基礎的な日本語教授法の研修を実施しました。

(2) 海外日本語教師短期研修（2か月）

68か国・1,405名（89年度より実施）

海外の初・中・高等教育機関等の日本語教師を招へいして、日本語、日本語教授法、日本事情の集中研修を実施しました。

(3) 在外邦人日本語教師研修（1か月）

54か国・381名（89年度より実施）

海外に長年滞在している日本人の日本語教師を招へいして、日本語学・教授法についての知識の整理と拡充を図ると同時に、最新の日本事情についての情報を収集する機会を提供しました。

(4) 大韓民国高等学校日本語教師研修（2か月）

272名（93年度より実施）

高校レベルの日本語教育が特に盛んな韓国については、韓国政府教育部との協力で、中堅の日本語教師を対象とした独自のプログラムを実施しました。



日本の文化を体験 - 「生け花の授業」

(5) 中国大学日本語教師研修（2か月）

237名（93年度より実施）

高等教育機関で日本語教育に携わる教師数が最も多い中国について、中国教育部等より推薦された教師を招へいし、中国の実情に合わせた独自の研修を実施しました。

(6) オーストラリアの日本語教師に対する個別研修

180名（92年度より実施）

オーストラリアの各州教育省などとの協力により、初・中等教育の教員を中心に独自研修を実施しました。

(7) 北京日本学研究中心日本語教師訪日研修

（1か月）

305名（89年度より実施）

「北京日本学研究中心」の日本語研修コースに学ぶ高等教育機関の日本語教師を招へいし、日本事情研修を実施しました。

元研修生から (1)



ドイツ

ヨーロッパ日本語教師会会長

磯 洋子

（94年度在外邦人日本語教師研修）

日本語国際センター開設10周年心からお祝い申し上げます。

在外邦人日本語教師研修に参加させていただいたのは平成6年でした。この研修に馳せる思いには特別なものがあります。単純にそれまで孤軍奮闘していた日本語教育の現場に寝食を共にして話し合える同僚を得た嬉しさ、「一番勉強になったのは地理」と言わせてしまうほど一度にたくさんの国の日本語事情を知ることができ、世界に広がる日本語教育、それに関わる教師の役割も参加者とともに自覚することができたからです。

4週間の「全寮日本語研修」を終え明日はみんなまた

それぞれの国に帰ってしまうのだと実感したとき、再開を約束して別れを惜しみました。その中でヨーロッパからの参加者13名は再び「孤軍」に戻りたくなく、これからみんなで情報を交換して日本語教育の発展のためにがんばろうと最後のお別れパーティーが「ヨーロッパ日本語教師会設立発起人会」となりました。これは今考えると当然のなりゆきだったかもしれません。

浦和研修の同窓会のつもりで出発したこの会も、今ではヨーロッパ25カ国、日本・アメリカを含む165名の会員数を持つ会となり、年1回開催するヨーロッパ日本語教育シンポジウムは今年で第4回を迎えるまでに成長しました。日本語国際センターにルーツを持ち、研修でのありあまる貴重な体験を忘れないたくさんの同僚が世界の日本語教育界でがんばっていると確信して止みません。研修生を代表し心から日本語国際センターに感謝申し上げます。

- (8) タイ中等学校日本語教師訪日研修(7週間)
60名(96年度から実施)

国際交流基金バンコック日本語センターがタイ教育省と協力して実施している、現職中学校教師を日本語教師として養成する集中日本語研修と連携し、同研修講座の受講生を招へいして、日本語・日本語教授法・日本事情の研修を行いました。

- (9) 日本語教育専門家派遣前研修(1週間)
145名(91年度より実施)

国際交流基金が海外に派遣する日本語教育専門家を対象として、派遣専門家としての役割や赴任地の社会、文化、日本語教育事情について学ぶ機会を提供しました。

- (10) 埼玉県JET青年日本語研修(1週間)
10名(98年度より実施)

埼玉県の中学・高校に配属されたJET青年(外国語指導助手)に、日本語運用力の研修を行いました。

- (11) その他

96年度までに、外交官日本語研修で65か国・161名、

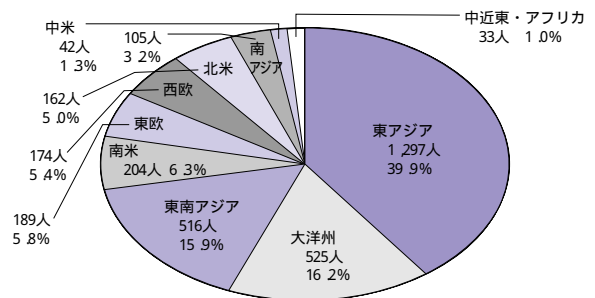
海外司書日本語研修で25か国・86名、海外日本語学習者成績優秀者研修で70か国・1,691名を招へいし、研修を実施しました。(この3研修は、97年度から関西国際センターでの実施となっています。)

研修参加者国別一覧(上位20か国)

単位:人

順位	国名	人数	順位	国名	人数
1	中国	774	11	ロシア('93~)	106
2	韓国	769	12	ドイツ	92
3	オーストラリア	531	13	マレーシア	82
4	インドネシア	300	14	フィリピン	61
5	ブラジル	247	14	メキシコ	61
6	タイ	246	14	旧ソ連(~'92)	61
7	米 国	206	17	ベトナム	58
8	カナダ	123	18	フランス	57
9	ニュージーランド	121	19	イタリア	49
10	イ ン ド	119	19	ポーランド	49

教師研修参加者の地域別内訳



元研修生から(2)



インドネシア
Dharma Wiweka 高校教諭
Ketut Sudiarsa

(90年度海外日本語教師長期研修)
(97年度海外日本語教師短期研修(春期))

私は1回目1990年に9カ月の海外日本語教師長期研修で、2回目は1997年に2カ月の海外日本語教師短期研修で日本の北浦和にある日本語国際センターに行きました。

1回目の時、私は日本語が全然分かりませんでした。日本語国際センターの先生方は忍耐よく親切に日本語を教えてくださいましたので、だんだん分かるようになりました。研修のプログラムもよく役に立ちました。日本語のことだけではなく、教授法や文化や日本の生活、また、いろいろな行動授業も教えていただきました。例えば、生け花や書道や茶道やホームステイの授業などです。1990年に私はAクラスだったので一番低いレベルから勉強しましたが、1997年はCクラスになりました。

研修旅行は本当に楽しくていい勉強になりました。旅行の日程表はきちんと決められていて、ガイドさんもていねいな言葉で見学する所をよく説明してくれました。それだけではなく、旅館とホテルの違いも分かりました。

私はホームステイを3回しました。埼玉県の久喜市と与野市に1泊ずつして、お正月のときに大分県の臼杵市で10日間ぐらいました。私のホームステイしたところ

のホストファミリーは親切で、いろいろな日本の生活をさせていただきました。特にお正月をお祝いするためにもちを作ったり、門松を作ったり、家をきれいにそうじしたりしました。毎日日本の料理をごちそうになり、大みそかの時にご家族とお寺へお参りにいきました。お正月の次の日に別府にあるきれいな温泉に連れていってくださいました。いい記念になりました。

1991年6月に帰国してから、インドネシア・パリの高校日本語教師たちに私の日本での活動を話しました。その時から日本語の授業を広げるためにいろいろな活動を作ります。例えば、日本語大会「弁論大会、日本文字書き方、問題に早く正しく答えるゲーム」や日本語勉強会などです。今までもジャカルタの国際交流基金日本語センターとインドネシア文部省と協力して、パリ州で高校日本語教師の研修を何回か行いました。そのほか、ジャカルタの日本語教師インストラクター特別研修も何回か参加したことがあります。インドネシアの高校の日本語の教科書もチームと一緒に作りました。最近、私はダルマウィウエカ高校だけではなく、デンパサール・クルタウィサタ観光専門学校やサラスワティ外国語専門学校やLP31コンピューター専門学校でも日本語を教えています。

最後に、北浦和の国際国流基金日本語国際センターの協力を心から感謝申し上げます。

2 制作事業

各国の日本語教育の自主的な発展を支援する事業の一環として、教材の需要に応えるため、教材自主制作・教材制作支援・教材寄贈を3本柱に事業を実施しました。

(1) 自主制作教材（現在提供中のもの）

イ 教科書・辞書.....15種類・19か国語

種類：

『日本語初歩』『日本語中級』『日本語中級Ⅱ』『基礎日本語学習辞典』『日本語への招待』『入門』シリーズ、及び各副教材等、他計15種類。

使用言語：

イタリア語・インドネシア語・ウルドゥー語・スペイン語・タイ語・ドイツ語・ハンガリー語・ビルマ語・ヒンディー語・ベトナム語・ベンガル語・ポーランド語・ポルトガル語・マラティ語・マレー語・モンゴル語・ルーマニア語・英語・韓国語・中国語・日本語 計19か国語。

ロ 視聴覚教材.....2種類

(イ) 『写真パネルバンク』シリーズ全5巻



(ロ) 『ヤンさんと日本の人々』シリーズ

・スキット（正・統計26話）

・『テレビ日本語講座初級Ⅰ』

（Let's Learn Japanese：BasicⅠ）

英語版と吹き替え等による各国語版を、韓国・中国本土・香港・タイ・ベトナム・フィリピン・スリランカ・オーストラリア・カナダ・米国・ブラジル・ギリシャの海外全12か国のべ19局で放映。

・『テレビ日本語講座初級Ⅱ』

（Let's Learn Japanese：BasicⅡ）

英語版と吹き替え等による各国語版を、韓国・中国・カナダ・米国の海外全4か国のべ9局で放映。

ハ 素材型教材.....1種類

「教科書をつくろう（練習編、説明編、音声テープ）」をロイヤリティーフリーで提供。

ニ その他

研修用教材3種類、教師用参考書9種類。

元研修生から (3)



オーストラリア

All Saints' College 教諭

Simone Johnson

（98年度豪州小学校日本語教員訪日研修）

今年の一月に、うらわしの日本語国際センターでセミナーに参加しました。やく三週間の日本語の授業と日本文化の授業は、日本での生活にちゅうもくしておこなわれました。たとえば、乗り物のことや買い物のことや食べ物のことなどについて、すべて日本語で教えてくれました。それから、大学の先生が来て、日本の伝説的な歌を教えてくださいました。また、アメリカンスクールから

来た先生がいろいろなゲームを教えてくださいました。

東京でいろいろな所を見物しました。歌舞伎や浅草や東京博物館などに行きました。そして、小学校をほうもんして、もう一人のオーストラリア人の教師と二人でオーストラリアについて授業をしました。

東京から新幹線で、京都に行きました。京都で旅館に一泊泊まりました。私は六かいめのらいにちですが、今度はじめておんせんに入ることを体験しました。雪が降っている中、野外のおんせんにのんびりつかりました。

そのセミナーはとても計画的だったと思います。東オーストラリアの日本語の教師に会えて、日本語が使えて、日本の文化について勉強ができました。本当に良い体験ができました。

(2) 教材制作支援事業

イ 日本語教育フェローシップ

21か国・85機関・104名（89年度より実施）

海外各国現地での主体的な日本語教材の開発や教授法・カリキュラムの開発を支援するため、海外の日本語教育専門家を日本に招へいし、制作・研究の機会を提供しました。

ロ 教材制作助成事業

29か国・170機関（89年度より実施）

海外において出版される日本語教材の制作企画に対して、制作費の一部を助成しました。

(3) 寄贈事業

イ 日本語教材寄贈事業

116か国・10,361機関（91年度より実施）

海外の日本語教育機関に日本語教材やワープロ機器を寄贈しました。（90年度までは基金本部図書課で実施されました。）

ロ 日本語教育器材寄贈事業

21か国・132機関（93年度より実施）

東欧・旧ソ連の日本語教育機関にビデオ機器やコピー機器を寄贈しました。

教材制作支援事業・寄贈事業の地域別実績（1989年度～1998年度）

（単位：件数）

	日本語教育フェローシップ	教材制作助成	日本語教材寄贈	日本語教育器材寄贈
アジア	46	91	2,750	
大洋州	5	14	2,163	
米州	11	29	3,038	
欧州	21	32	2,228	（東欧のみ）132
中近東	1	4	136	
アフリカ	1	0	46	
機関数合計	85	170	10,361	132
（国・地域数計）	（21）	（29）	（116）	（21）

元研修生から (4)



タイ

Kasetsart大学助教授

Soysuda Na-Ranong

（91年度海外日本語教師短期研修（春期））

国際交流基金日本語国際センターの設立10周年にあたり、心からお祝いを申し上げます。この機会に、平成3年度春の浦和での2か月の短期研修を振り返って考えたことを少し述べさせていただきます。

短期研修に参加した時から、気付かぬうちに8年もの年月が過ぎてしまいました。でも、浦和センターで起こった出来事、出会った人々は、良き思い出として今でもはっきり心に残っています。

浦和センターは設備も整っており、勉強や研究にふさわしい、大変素晴らしい施設だと思います。お気に入りの場所は、図書館、自習室、喫茶室でした。一人でいた

くない時、わざわざセンターの外にでかけなくても、他の人とコミュニケーションをとることができ、勉強だけでない楽しい生活を送ることができました。嬉しいことに、この時知り合った各国の友だちの何人かとは今でも文通しています。お互いに、いつか世界のどこかで再会できることを強く信じています。友情は国を超えて存在するものだとして初めて実感しました。

学校や大学などの訪問も有益でした。私の時には一校ずつしか訪問できなかったのですが、できればもっと多くの教育機関を見学したかったと思います。研修生たちは、大部分が母国で教職についているので、きっと興味を示すことでしょう。

最後に、このような素晴らしい研修の機会を与えてくださった国際交流基金に感謝いたします。センターで学んだことや日本で得た貴重な経験を活かして、ささやかながらも、タイと日本のかけ橋となるよう、これからも日本語教育に力を尽くしていきたいと思っています。センターでお世話になった皆様、本当にありがとうございました。

元研修生から (5)



タイ

Naresuan大学

Yaowaret Wangtrakoondee

（90年度海外日本語教師長期研修）

（98年度海外日本語教師短期研修（冬期））

私はタイのナレースワン大学のヤワレートともうします。今、ナレースワン大学 人文社会学部 言語学科日本語科で日本語を教えています。

私は1990年に浦和の国際交流基金日本語国際センターで、長期研修生として、日本語をならいました。この日本語国際センターに行く前に、私は日本語を話すじしんがあまりありませんでした。けれどもセンターに行き、いろいろ勉強して、いろいろな国の人とこうりゅうできて、とてもいい思い出だと思います。

そして、1999年にも短期研修生としてまた日本語国際センターに行けて、とてもいい思い出でした。日本のげんざいのことがみられて、とてもいい勉強になりました。

今、ナレースワン大学の日本語専攻の学生に日本語を教えています。げんざいの日本のことも教えられてとてもやくにたちます。ナレースワン大学はちほうの大学ですから、学生たちは日本人に会うきかいもあまりないし、日本のげんざいのこともあまり知らないし、先生は学生にしらせないといけません。ですから今回の研修は、私にとっても、学生にとっても、いいことだと思います。

今年、浦和の日本語国際センターはもう10年になりました。私は、国際交流基金 日本語国際センターのみなさんにありがたいといつまでもおもっています。日本語国際センターは、日本語のがくしゅうしゃにとってとてもたいせつなところですから、ずっと研修をつづけてください。

3 情報交流事業

情報の交流を通じて海外の日本語教育の発展を支援するため、海外日本語教育状況調査、日本語教育関係資料の作成・配布、日本語教育専門図書館の運営等の事業を実施しました。

(1) 海外日本語教育状況調査

特定地域に日本語教育専門家や職員・専任講師を派遣し、当センターの各種事業のフォローアップ・調査等を行ったほか、1990年、1993年、1998年に海外日本語教育機関調査を行い、次の調査結果報告書を発行しました。

イ 『海外の日本語教育の現状 - 1990年 - 』
(92年3月発行)

ロ 『海外の日本語教育の現状 - 1993年 - 』
(95年3月発行)

* 98年調査の報告書は2000年3月までに発行予定です。

(2) 情報交流資料作成・配布

日本語国際センターが収集した日本語教育に関する情報や日本語教育・研究の成果を、内外の日本語教育機関や関係者に提供し、情報交流を促進するために、以下の資料を作成・配布しました。

イ 『日本語教育通信』
計33号(89年度より刊行)

海外の日本語教師に役立つ情報を提供するためのニュースレターです。センター研修生OB、基金の日本語教育派遣専門家、海外の日本語教師会等の協力も得て、内外の日本語教育情報を中心に掲載しています。

ロ 『日本語国際センター紀要』
計9号(89年度より刊行)

日本語国際センターおよび関西国際センター、海外日本語センターの専任講師・職員などの教育・研究活動の成果を発表するための論文集で、これまで通算58本の論文を掲載しました。

ハ 日本語教育論集『世界の日本語教育』
計8号(89年度より刊行)

日本語教育・研究に関する論文を広く世界から公募し、審査によって選ばれた論文からなる専門誌で、これまで通算127本の論文を掲載しました。

ニ 『世界の日本語教育 日本語教育事情報告編』
計5号(94年度より刊行)

日本語教育が実施されている国々の日本語教育・日本語学の研究状況や、日本語教育の実践・制度・政策の現状をまとめ、日本語教育関係者間の情報交流と連携協力を図るために発行するカレント・レポートで、



これまで通算97本のレポートを掲載しました。日本語教育論集『世界の日本語教育』の姉妹編として刊行しています。

(3) 日本語教育専門図書館の運営

日本語国際センターが招へいする海外日本語教師をはじめ、内外の日本語教育関係者の教育研究活動のための専門図書館として、日本語教材、日本語教育関係等の資料を収集・整理し、閲覧・貸出・レファレンスサービスを行いました。

蔵書数・利用者等の実績については以下のとおりです。

イ 日本語国際センター図書館蔵書数

(99年3月31日現在)

	冊数等
図書資料	30,412冊
視聴覚資料(ビデオ・LD・カセット・CD)	3,821点
マイクロ資料	383点
電子形態資料	97点
その他(絵教材・スライド・地図等)	260点
逐次刊行物(雑誌・紀要・ニュースレター・新聞)	517種

ロ 89年度～98年度図書館利用者及び貸出数実績

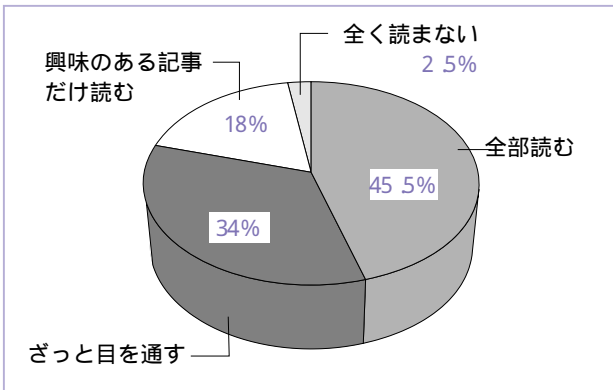
年度	利用者数	貸出数		
		研修生	一般	計
89年度	3,245	4,262	2,373	6,635
90年度	6,820	3,704	5,241	8,945
91年度	7,674	3,941	5,800	9,741
92年度	8,147	2,549	4,164	6,713
93年度	7,935	2,924	4,288	7,212
94年度	11,132	3,110	4,912	8,022
95年度	12,223	4,043	4,721	8,764
96年度	19,639	5,183	4,866	10,049
97年度	20,746	4,943	6,020	10,963
98年度	21,152	5,861	6,591	12,452
総計	118,713	40,520	48,976	89,496

『日本語教育通信』をよみますか？

～「読者アンケート」集計結果概要～

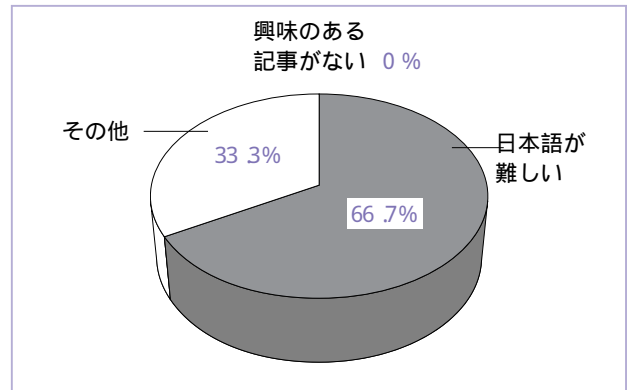
『日本語教育通信』編集部が本紙第33号（1999年1月号）で実施した「読者アンケート」には、52か国から476件の回答（回答率4.8%）をいただきました。その集計結果の概要を報告いたします。

1. 『日本語教育通信』を読みますか？



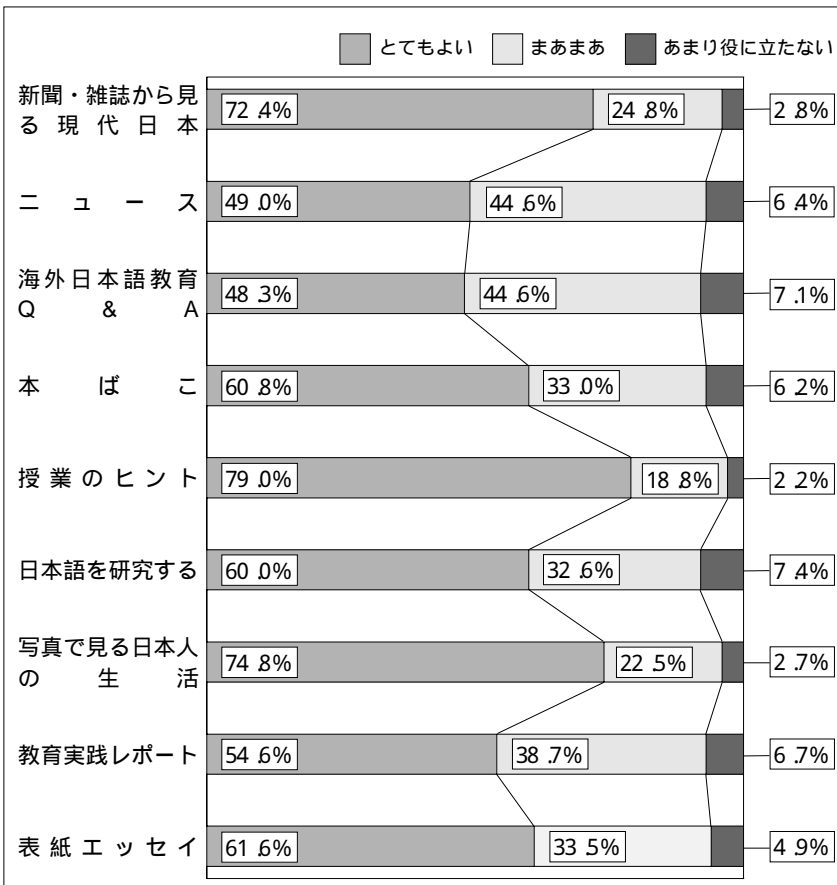
「毎号全部の記事を読む」という人が半数近くおり、「ざっと目を通す」人と合わせると、4分の3以上の人が全部の記事を読んでいることがわかりました。

読まない理由は？



「全く読まない」と答えた12人に、その理由を尋ねました。記事の内容よりも日本語が問題になることが多いという結果が出ました。

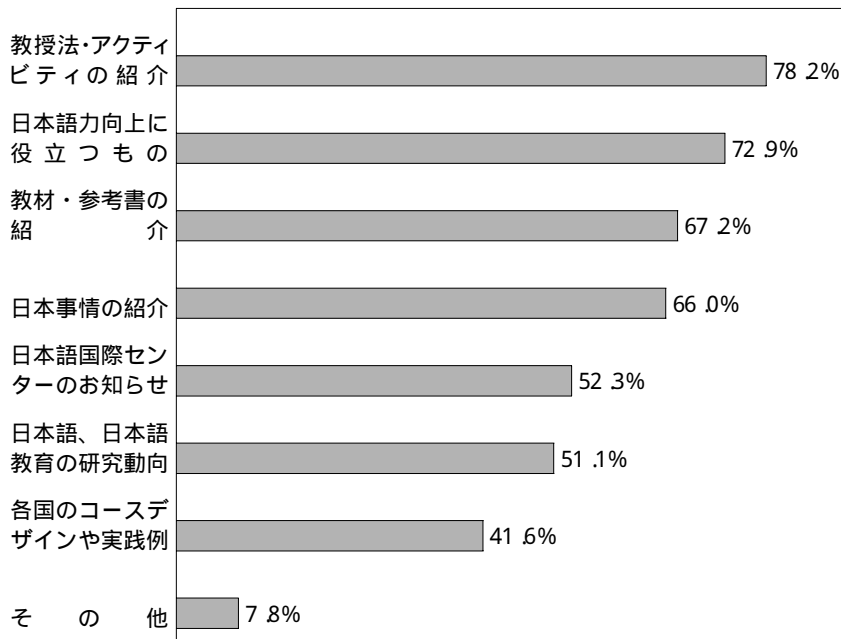
2. 掲載記事の内容について



連載中の記事を「とてもよい」「まあまあ」「あまり役に立たない」の3段階で評価してもらいました。

「授業のヒント」「新聞・雑誌から見る現代日本」「写真で見る日本人の生活」がベスト3で、授業のアイデアや教材、日本事情についての関心が高いことがわかりました。

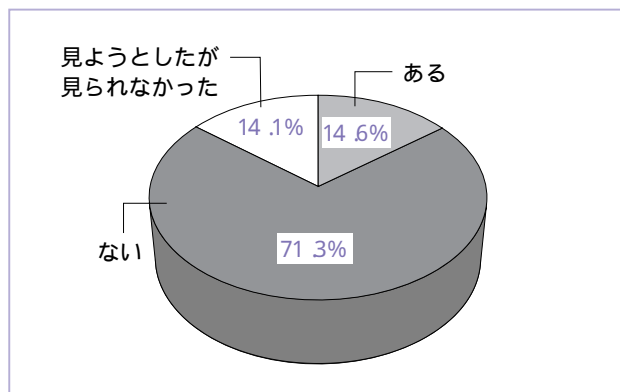
3. 今後の内容への期待 (複数回答)



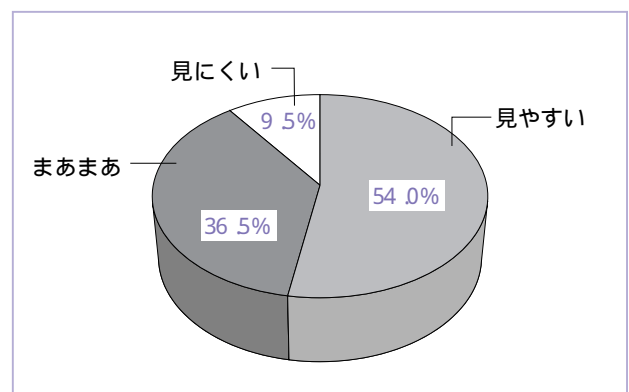
今後どんな内容の記事を期待するかを選んでもらいました。

「教授法や授業で使えるアクティビティの紹介」を望む人が一番多いことがわかりました。また、「日本語についての話題など日本語力の向上に役立つもの」や「日本事情の紹介」を期待する声も多く、日本語と日本文化に対しての先生方の興味が感じられました。

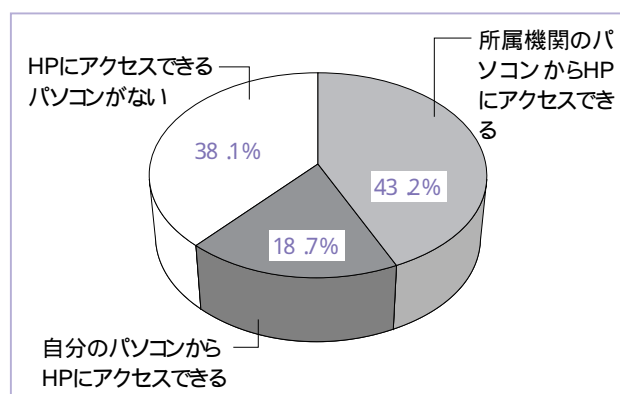
4. 『日本語教育通信』ホームページについて ホームページを見たことがあるか？



ホームページを見た感想は？



インターネットの利用環境



『日本語教育通信』を国際交流基金のホームページ上で「見たことがある」という人はわずかでした。ホームページを見た人には、その感想を「見やすい」「まあまあ」「見にくい」の3つから選んでもらいましたが、比較的いい評価が出ました。

インターネットの利用環境では、「ホームページにアクセスできるパソコンがない」という回答が全体の3分の1以上を占めており、インターネットが自由に利用できるのは、まだこれからのようです。

5. 『日本語教育通信』への要望・ご意見

『日本語教育通信』への意見を自由に記入してもらいました。「発行回数を増やしてほしい」「ページ数を増やしてほしい」という要望が多く寄せられました。「写真はカラー刷りで」という意見もありました。内容については、「年少者向けのアクティビティの紹介、日本の流行事情や流行言葉の紹介を入れてほしい」という声が聞かれました。

* 皆様のご意見は今後の紙面作りに生かしていきます。ご協力どうもありがとうございました。